

見て、聞いて、体験して発見する私だけの京都・奈良

～体験的な活動を通して成長する生徒を目指して～

沼田市立薄根中学校

教諭 小渕 誠

教諭 須田 秀昭

I はじめに

II テーマ設定の理由

III 実践①「修学旅行までの取組」

- 1 1年生での実践「横浜旅行」
- 2 2年生での実践「東京旅行」
- 3 3年生での実践

IV 実践②「修学旅行」

V 実践③「修学旅行後の取組」

- 1 ホームページ作り
- 2 旅行記作り

VI 成果と課題

- 1 成果
- 2 課題

I はじめに

本校は、群馬県北部に位置する沼田市にあり、隣接する薄根小学校から入学してくる生徒がほとんどである。沼田市は、赤城山や武尊山などの山々に囲まれた自然豊かなところで、標高は250mから2000m余りに及ぶ起伏に富んだ地形となっており、本校は標高394mに位置している。市街地は南北に流れる利根川とその支流の片品川、薄根川により形成された日本一の河岸段丘上に広がっている。「玉原高原」や「吹割の滝（国指定文化財）」をはじめ、豊富な温泉やリゾート施設など観光地として年間を通し多くの人々が訪れている。平成17年2月13日には、利根郡白沢村、同郡利根村と合併し、現在の人口は55,602人となっている。

沼田市内には9つの中学校がある。本校は生徒数218名が在籍、8学級で3番目の生徒数である。親子で取り組む「花いっぱい活動」や生徒会、PTA、地域住民を中心とした「リサイクル活動」、生徒・保護者・教師が一体となって取り組んでいる「あいさつ運動」などは、10年以上前から続いている大切な行事である。部活動も盛んで、最近では卓球部が個人や団体の全国大会出場、2年前は団体において全国3位の実績を残している。



II テーマ設定の理由

本校では、知性に富み、たくましく、豊かな人間性を育てる教育を推進し、自ら考え、正しく判断し、実践できる生徒の育成に努めている。具体的な生徒像として

- 「英知」 自ら学び、知性を磨く創造性豊かな生徒
- 「健康」 自ら鍛え、心身共に健康でたくましい生徒
- 「友愛」 自らに厳しく、思いやりのある、明るく礼儀正しい生徒

を目指している。

第3学年では、

- 「英知」 学習や生活に対して自ら進んで考え、正しく判断し、行動できる生徒
- 「健康」 健康を管理し、目標に向かって最後までやり抜く気力と体力を身に付けている生徒
- 「友愛」 互いの立場を理解し、友情を深められる生徒

を目標として取り組んでいる。

また、「自ら学び、自ら考える生徒の育成」を校内研修の研究主題として数年来にわたって取り組んできている。この取り組みによって、生徒自身がこれまでの学習や活動によって得られた結果を把握し、学習や活動の目的に対する自分の取組を判断し、今後の学習や活動の仕方を考え、実践していく力を身に付けさせることによって、

- 学ぶ喜びを感じ、進んで学習に取り組むことができる生徒
- 目的に応じて学習の仕方を工夫することができる生徒
- 自分の考えをよりよく表現することができる生徒

の育成に努めてきた。

これらの取組と関連を図りながら、特別活動における学校行事の「旅行・集団宿泊的行事」における「平素とは異なる生活環境において、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行う」ことをねらいとした修学旅行を実施する必要があると考える。また、日本の文化に触れる中で友情を深め合いながら思い出に残る行事とすることが、最高学年の集団としての団結を深め、物事に積極的に取り組む生徒の育成とリーダーとしての資質の向上を図れると考え、本テーマを設定した。

Ⅲ 実践①「修学旅行までの取組」

1 1年生での実践「横浜旅行」

(1) ねらい

- ・旅行のねらいや意義を理解させ、班行動の計画や班行動の目標を立てさせる。
- ・班行動を通して、自己の役割と班員としての自覚を持たせるとともに、互いに助け合う態度と心情を育てる。
- ・平素と異なる生活環境にあって、集団生活の在り方を学ぶとともに、公共交通機関の利用に慣れ、安全に旅行しようとする態度や社会性（公衆道徳）を身に付けさせる。
- ・歴史的建造物や文化的施設が多数ある横浜において、歴史や文化に触れることで歴史や文化に対する興味・関心が深められるようにする。

(2) 実施方法

学年全体を11の班に編制して班別行動で平成15年10月2日に実施した。必ず見学する場所として3つを指定し、その中を含む見学地を班毎に計画させた。

○必ず見学する場所

- ・横浜開港資料館 ・横浜美術館 ・三菱みなとみらい技術館

○その他の見学場所

- ・マリンタワー ・横浜人形の家 ・シルク博物館
- ・氷川丸 ・横浜中華街 ・日本丸メモリアルパーク
- ・横浜スタジアム ・港が見える丘公園 等

班別行動の準備、計画から実際の活動までを経験することで、班別行動の良さや大変さを実感することができた。また、学級や学年の集団としてまとまりが感じられる時期の実施であったので、よりよい集団作りとしても有効であった。



2 2年生での実践「東京旅行」

(1) ねらい

- ・班行動を通して、自己の役割に責任と自覚をもたせるとともに、お互いに助け合い協力し合う態度と心情を育てる。
- ・政治、経済、文化の中心である東京において、新旧の数多くの建造物や施設に触れ、歴史や文化等に対する興味や関心を深めさせるとともに見聞を広める。
- ・電車等の交通公共機関の利用に慣れ、安全に旅行しようとする態度と公衆道徳等の社会性を身に付けさせる。

(2) 実施方法

学年全体を11の班に編制して班別行動で平成16年10月5日に実施した。見学地は、政治や経済、歴史や文化に関係する施設や場所を班毎に計画させ、実施した。

○主な見学場所

- ・浅草寺 ・フジテレビ ・国会議事堂 ・国立科学博物館 ・明治神宮
- ・水の科学館 ・電力館 ・古代オリエント博物館 ・都庁 ・秋葉原電気街
- ・日銀金融研究所紙幣博物館 ・原宿 等



本校の生徒は、生活環境から交通手段は保護者の自動車がほとんどである。電車やバスなどの公共機関を利用することが少ないことから、班別行動の移動手段として電車等の交通公共機関を利用することに慣れることは、3学年の修学旅行のためにも必要であった。また、安全に旅行しようとする態度と公衆道徳等の社会性を身に付けさせることにも有効であった。班によっては、計画通り行動できない状況もあったが、臨機応変に交通機関を工夫したり、見学時間を調節したりする様子が見られた。

3 3年生での実践

(1) 班編制

2日間が班別行動となるので、班編制は修学旅行の目的を達成するために重要な活動と考えた。そこで、2学年3学期に「学級の枠」ととらわれない班編制を行うこととした。学年全体として取り組む重要な活動であるという意識と「学習の場」として京都・奈良に行くという意識をもたせることができたと思う。

(2) 宿題作り

楽しい思い出となる修学旅行だが、「また、京都・奈良にいつてみたい」「もっと京都・奈良を知りたい」「他の場所の日本文化の触れてみたい」など生徒の生き方につながる修学旅行にするためには目的をもって見学地を訪れることが重要と考えた。また、実際に見学地を訪れて「もっと知りたい」「他はどうだろう」「自分の故郷はどうだっただろう」などの新たな疑問や欲求がでてくることをねらいとして、事前に「宿題」と称して【見て追究する】【聞いて追究する】【体験して追究する】ための課題

を見学地毎に各班に設定させた。

修学旅行プリント：N o 4（表）

見て、聞いて、体験して 自分だけの京都・奈良を見付けよう！！			
_____班			
<u>見たから、聞いたから、行ったから分かった、発見した、</u> <u>もっと知りたい調べてみたいと思った</u>			
場所名			
拝観料	円	拝観時間	
駅・バス停		駅・バス停からの徒歩時間	分
どんなところか			
見たいところは			

修学旅行プリント：N o 4（裏）

聞きたいことは
行ってみないとわからないことは
楽しみにしていることは

○宿題の例 ※（ ）内は見学地または体験場所

- ・千手観音像の前にある二十八武衆立像はどんな意味で置かれているのか（三十三間堂）
- ・なぜ、学問の神様と言われるようになったのか（北野天満宮）
- ・將軍の居間や寢室のなどの白書院を実際に見てみたい（元離宮二条城）
- ・写真ではなく弥勒菩薩の美しさを確かめてみたい（広隆寺）
- ・平安時代の極楽浄土を再現した庭園を見てみたい（平等院）
- ・ウグイス張りの音を実際に聞いてみたい（元離宮二条城）
- ・どうして柱が赤いのか（八坂神社）
- ・本当に自分と似た顔があるのか（三十三間堂）
- ・安土桃山時代の建物の特徴は何か（北野天満宮）
- ・清水の舞台からの眺めを実際に見てみたい（清水寺）
- ・中国風の精進料理「普茶料理」はどんな味か（萬福寺）
- ・焼き八つ橋で昔から使われている道具を見てみたい（井筒八ッ橋本舗）
- ・池の岸から見る金閣寺の美しさを確かめたい（金閣寺）
- ・自分が想像している銀閣寺と実際の銀閣寺を比べてみる（銀閣寺）
- ・京都のくずきりと他のくずきりの違いは何か（八つ橋庵かけはし）
- ・千手観音像は一つ一つ違う顔なのか（三十三間堂）
- ・鳳凰堂は十円玉と同じなのか（平等院鳳凰堂）
- ・七味唐辛子は、調合によって味や香りが違うのか（アミタ本店）

- ・ 仁王像は寄木造りだが、木のつぎめはわかるのか（清水寺）
- ・ 第2次大戦中に京都の仏像が燃えなかったのはなぜか（平等院）
- ・ なぜ、牛の像に触ると悪い所が治るのか（北野天満宮）
- ・ 木目が偉い人の部屋に向かって造られているらしいので確かめたい（仁和寺）
- ・ 鐘楼を沼田公園にあるものと比べたい（法隆寺）
- ・ どんな道具で京菓子を作るのか（総本家よし廣）
- ・ 2年生で学習した徒然草にでてくる場所なので実際に見てみたい（仁和寺）
- ・ 売っている八つ橋と自分たちが作った八つ橋の比べてみたい（八つ橋庵とししゅうやかた）
- ・ 金堂の中央部の屋根が一段切り上げられた建築様式をとっているのはなぜか（東寺）
- ・ 火災を防いだと言われる大銀杏が写真に載っていないので見たい（西本願寺）

（3）体験学習

地域の方と関わりながら、歴史のある産業や伝統がある職人技への理解を深めるために体験学習を班別行動のなかに計画させた。他の見学地との関係から1～2箇所程度の体験学習となったが、「何を学習したいか」「なぜ学習したいのか」「どこで学習できるのか」「どのくらいの費用でどんな学習ができるのか」等、事前学習から体験学習施設への申込、旅行当日の学習までを生徒に行わせた。話し合った体験学習が相手施設の予約状況や休館日等により3～4回ほど変更せざるを得ない班があったが、その都度話し合いを繰り返して旅行日までには予約を完了することができた。また、申込後に受け入れの返事が電子メールでくるものについては、生徒の状況把握のために担当職員のコンピュータで対応した。



体験学習場所一覧

班	体験場所	体験内容	体験時間	費用一人あたり	電話番号
1	総本家よし廣	京菓子作り	90分間	1,575円	075-811-5554
2	井筒八つ橋京極一番街店	焼き八つ橋作り	45分間	800円	075-255-2121
3	八つ橋庵かけはし	くずきり作り	60分間	750円	075-313-2151
4	アミタ本店	七味唐辛子の調合	40分間	1,050円	075-761-7000
5	舞扇堂きよみず店	京扇子作り	90分間	1,680円	075-532-2001
6	舞扇堂祇園店	京扇子作り	60分間	1,680円	075-532-2002
7	舞扇堂祇園店	京扇子作り	60分間	1,680円	075-532-2002
8	アミタ本店	七味唐辛子の調合	30分間	1,050円	075-761-7000
	総本家よし廣	京菓子作り	90分間	1,575円	075-811-5554
9	八つ橋庵とししゅうやかた	生八つ橋作り	60分間	800円	075-313-2151
10	高橋扇子店	京扇子作り	90分間	2,100円	075-351-0561
11	古代友禅苑	型友禅染	60分間	1,550円	075-823-0500
12	八つ橋庵とししゅうやかた	生八つ橋作り	40分間	840円	075-313-2151

(4) 班別行動

本校では2泊3日の日程で旅行を実施したが、最近では1日目に奈良方面を全体行動、2日目を班別行動、3日目を京都方面を全体行動とすることが多かった。しかし、研究テーマにもあるように生徒自ら行動する修学旅行にしたいと考え、1日目と2日目を班別行動とした。3日目については、新幹線を利用して帰路につくことから学年全体で見学することにした。

また、班別行動の方法として効率的に見学できるタクシーを利用することも考えたが、「自分たちで創る修学旅行」にしたいという理由から公共交通機関を利用したの班別行動とした。

【1日目】	【2日目】	【3日目】
上毛高原駅集合 8:10	宿舎出発 8:00	宿 舎 出 発 8:30
上毛高原駅出発 9:02	※班別行動	清 水 寺 到 着 9:00
東 京 駅 出 発 10:53	電話連絡 10:00	※記念写真
※新幹線内で昼食	14:00	清 水 寺 出 発 11:00
京 都 駅 到 着 13:14	宿舎到着 17:30	三十三間堂到着 11:20
京 都 駅 解 散 14:00	※1日目と同じ	三十三間堂出発 12:00
※班別行動		京 都 駅 出 発 13:32
ホ テ ル 到 着 17:00		※新幹線内で昼食
		東 京 駅 出 発 17:00
		上毛高原到着 18:20
		上毛高原解散 18:40

修学旅行プリント：No5（表）

修学旅行 班行動 【1日目】 () 班				
班長名		副班長名		
班員名（係名）				
時刻	拝観場所	移動手段	バス路線、バス停、駅名	拝観料、運賃

修学旅行プリント：No5（裏）

修学旅行 班行動 【2日目】 () 班				
班長名		副班長名		
班員名（係名）				
時刻	拝観場所	移動手段	バス路線、バス停、駅名	拝観料、運賃

IV 実践②「修学旅行」

【平成17年5月12日】1日目

修学旅行1日目は、午後1時過ぎに京都駅に到着した。午後2時から5時までの最初の班別行動となった。12の班の内、3つが奈良方面、残りが京都市内の行動であった。また、2つの班では体験学習を行う計画で京都駅から各班毎に出発していった。午前中の移動の疲れが心配されたが、生徒からの緊急連絡もなく、宿舎へ到着する予定時刻までに全員が到着することができた。電車を利用した班の中には、予定場所とは反対方面への電車に乗り込んでしまい途中で引き返すハプニングや電車に乗り込む際に電車とホームの間から靴を落としてしまうなども報告されたが、周りの方に助けられながら班別行動を進めることができた。

「旅行のしおり」より（一部抜粋）

こんな場合はどうする？

1 降りる駅を乗り過ごしてしまった場合は

【全員の時】

- ・次の停車駅で降り、戻ることができる電車を調べたり、人に聞いて予定の駅に戻れるようにする。

【1人の時】

- ・予定の駅で降りた人は、降りたホームで待つ。（移動しないこと）
- ・乗り過ごした人は、次の停車駅で降り、戻ることができる電車を調べたり、人に聞いて予定の駅に戻れるようにする。ホームにいる班の人を見つけて合流する。（降りたホームとは違う場合が多いのでよく探すこと）

2 電車に乗り損ねた人がいた場合は

- ・乗った人は予定の駅で降り、降りたホームで待つ。（移動しないこと）
- ・乗り損ねた人は、次の電車で予定の駅へ行き、ホームにいる班の人を見つけて合流する。

3 間違っただう電車に乗ってしまった場合は

- ・気づいた時点で次の停車駅で降り、戻ることができる電車を調べたり、人に聞いたりして乗った駅に戻れるようにする。

4 道に迷ってしまった場合は

- ・派出所や警察官が一番よいが、店の人や信頼できそうな大人の人に聞く。どうしても解決できないときは、本部まで連絡をする。
- ・駅には派出所があったり、駅員さんに聞いたりできるので駅に戻るのもよい。

5 班員がはぐれてしまった場合は

- ①電車の場合は、【1・2のように行動】
- ②見学地の場合は、【本部へ連絡し、指示を受けて行動】
- ③その他の場合は、【グループが分かれてしまったり、1人ではぐれてしまったりしたときは、お互いに本部に連絡し、指示を受けて行動】

【平成17年5月13日】2日目

修学旅行2日目は、午前8時から午後5時30分まで班別行動であった。12の班の内、2つが奈良方面へ、残りが京都市内の行動であった。また、10の班では体験学習を行う計画で宿舎から各班毎に出発していった。やや暑い日となり、生徒の体調も心配されたが教師へ各班よりの定時連絡からは全員が元気に活動している様子が確認できた。また、体験学習にかかる時間が予定より長くなったり短くなったりしたことで、それ以降の計画を修正して班別行動をする班がいくつかあったが、生徒達が状況を判断しながら行動を決定する力が1～2年次の旅行での経験によって身に付けていることを実感した。また、予定していた路線が事故により不通になってしまった班があったが、班内に電車に関する知識が豊富な生徒がいたために他の路線を乗り継いで宿舎に戻ることができた。互いに力を合わせて行動した結果だと感じた。

全国から観光客や修学旅行生などが集まる地域であることから生徒がいらぬトラブルに巻き込まれないように、前夜の班長会議や全体指導の際に行動や服装等の注意を促したが班別行動では落ち着いた様子がみられ、全員が宿舎に集合することができた。

今回の宿舎は、班別行動の利便性を考慮して京都駅から徒歩3～4分の場所あるところを利用することにした。また、同じ宿舎に2泊したことで、慣れるにしたがって宿舎内の生徒の活動に落ち着きが見られるようになった。



「旅行のしおり」より（一部抜粋）

修学旅行を楽しむために

～事故・事件防止のてびき～

京都 奈良へ修学旅行に来て、犯罪や事故などに巻き込まれたりすると、一生の楽しい思い出が台無しになってしまいます。皆さんが事件・事故や思わぬトラブルに巻き込まれないようにするためにはどうしたら、よいのでしょうか？

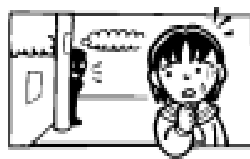
【犯罪（非行）・トラブル防止のために】

その1

修学旅行生をねらった恐喝事件が多発しています。修学旅行生は「必ずお金を持ち歩いている」と見られ狙われやすいので、必要なお金しか持ち歩かないようにして下さい。

因縁をつなれそうになったり、被害に遭ったときには、お店に助けを求めたり、110番して下さい。その後できるだけ早く、先生に連絡を取して下さい。

※京都府内には、「子ども110番のいえ」という緑色の看板を掛けている家やお店があります。困ったときや助けて欲しいときは駆け込んで下さい。



その2

京都には、全国各地から修学旅行生が来ます。観光地や旅館等で些細なことからケンカになることがありますので、言葉遣いや行動には十分注意して下さい。

※服装が乱れていたり、不注意に見えたりすると他校の生徒等に言いがかりをつけられて、暴行されたり恐喝されたりする被害が発生しています。



その3

はしゃいでいて転倒したり、ゲームに夢中になっていて財布を盗まれるなど、ちょっとした不注意が、大きな事故につながるケースがあります。

班行動では、一人一人が注意し合って責任ある行動を取って下さい。

【平成17年5月14日】3日目

修学旅行3日目は、宿舎の出発時刻に若干の余裕があったので宿舎近くの東本願寺まで朝の散歩をした。希望生徒のみだったが、約半数の生徒が6時30分に宿舎前の玄関に集合して出発した。

人通りがほとんど無く、朝のきりっとした空気の中で広い御影堂に驚きつつ、昼間とは違う京都を発見した気分になったように感じた。

帰りの新幹線に乗り込む時刻が決まっていることから、全体行動で清水寺、三十三間堂を見学した。三十三間堂に訪れていた人が少ないこともあったと思うが、全長118mある本堂を30分以上の時間をかけて見学する生徒が多数見られたことは、生徒が何か



を感じ取ろう、発見しようとする態度の表れだろうと思う。

V 実践③「修学旅行後の取組」

1 学年、2 学年の旅行後は「旅行記」という形で学習のまとめをさせたが、3 学年の修学旅行後は「ホームページ」形式と「旅行記」という方法でまとめさせることにした。他の教科等でホームページ作りを学習していることや視覚的に様々な工夫ができること、1 つの班が5～6 人で編成していたことから2 つの方法でも実施可能であることや生徒が取った写真を有効に使えるなどがその理由である。

1 ホームページ作り

本校のコンピュータ室は、40 台であることから各班2～3 台のコンピュータを使用してまとめをさせた。旅行中に撮影した写真はデジタル化して活用できるようにした。体裁や色、文字、壁紙等に時間をかけるのではなく、自分たちが宿題としたことを中心に見学場所や体験場所などについてまとめるように指導した。今回は、ホームページ形式で作成するが本校のホームページにアップロードはしないが、来年度以降の修学旅行で本校の生徒が活用できるようにしたいと考えている。



作成したホームページの例



2 旅行記作り

ホームページ作りと同時進行で旅行記作りを進めた。ページ数に制限はしなかったが、10～16ページ程度の旅行記が完成した。ホームページと違って、見たいときにすぐ見られる旅行記は自分たちで撮影した写真や見学場所でもらったパンフレット等を活用したり、イラストが得意な生徒が絵を描いたりしながらまとめる姿があった。



作成した旅行記の例



VI 成果と課題

1 成果

- 班編成を学級の枠にとらわれなくて編成したことで、学年全体で取り組む雰囲気が感じられ協力的な行動が多く見られた。
- 見学地毎に宿題を設定させたことで「修学旅行に行ったから見てきた」でなく「◇◇を見るために、◇◇を聞くために、◇◇を体験するために修学旅行に行くんだ」という能動的な意識をもって修学旅行を実施することができた。
- 「持っていく宿題の答えだけでなく、見学場所や体験場所にいったら新しい宿題を見付けよう」と投げかけたことで、漫然と活動するのではなく追究する気持ちをもって活動できた。

- 「ホームページ」と「旅行記」という方法でまとめことにより、あらためて日本の貴重な文化遺産や歴史、地理等について考えたり、京都・奈良と自分たちの故郷を比較したりすることができた。

また、旅行記をまとめる際に疑問に思ったことを電話にて質問する生徒がおり、



電話をした京都の寺の方も忙しい中にもかかわらず、数日後にいろいろ調べて丁寧な回答をいただいたことは、生徒の学習意欲を高めることになった。

- 体験学習の申込を生徒が行ったことで、旅行前から京都の方とのつながりを感じて体験場所に向かったところ、体験場所でも生徒の名前で出迎えてくれるなど自分たちが計画した旅行であることを実感できた。
- 班別行動にできるだけ多くの時間をあてたことで、計画通りいかない状況が時々みられたが集団行動の決まり・公衆道徳・健康安全等を考えながら、その場に応じた行動ができるよい機会とすることができた。また、班員が協力しあって、資料等を利用しながら自分たちの手で自分たちの行動の計画を立てることを通して自主自律の精神を養い、班別行動をしたことで修学旅行の成就感や達成感を感じることができた。
- 新しい学級編成になって間もない時期の実施であったので、旅先の生活を通して生徒相互及び教師と生徒の人間関係をより深め合い、学校生活の充実へつながる行事とすることができた。これは、集団や社会の一員としての自覚や責任感を深め、社会性の育成につながるものと考えている。

2 課題

- 本校においては、総合的な学習の時間に事前学習、事後学習を行っているが、総合的な学習の時間としてのねらい、内容を吟味して年間指導計画を含め、検討・改善していく必要があると考える。
- 専用臨時列車と在来線を乗り継いで往復するために、帰路において1時間程度の待ち時間があった。時間を有効に使うための工夫が必要である。
- 修学旅行前に、生徒がどれだけ京都・奈良での学習に目的をもつことができるかが成就感や達成感を体験するために必要である。この成就感や達成感を体験できるかどうか、その後の生徒を変容させ生き方に影響を与えることにつながると考えると、事前学習の工夫をさらにする必要がある。

